１　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390900074		
法人名	株式会社　いわい		
事業所名	グループホームにこにこひがしやま　『　やまゆり　』		
所在地	岩手県一関市東山町長坂字北磐井里１８７番地３		
自己評価作成日	平成26年6月10日	評価結果市町村受理日	平成26年9月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0390900074-00&PrefCd=03&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1　岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年8月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・あたりまえに行われていたことを、あたりまえに行えるよう支援しています。
・地域、家族との関係を大切にして行事、見守り隊、夏祭り、畑作業などを通じて交流し、入居者が住み慣れた環境で安心にして暮らせるよう支援しています。
・その人の心の中にある「ふるさと」をずっと大切にしてます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・老人クラブの活動（小学生の下校の見守り）、地域の清掃活動等に積極的に参加されており、地域の一員として日常的に地域住民との交流が図られており、また協力も得られている。
・敷地内に農園を作り畑やイチゴ畑での作業を通し、季節を感じ食に楽しみを持てるよう支援されている。
・利用者の重度化に対応し、個々に応じた支援がなされている。（入浴、排泄ケア）

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の唱和を申し送り時に行い常に心掛けながら実践につなげている。	グループの理念の他、年度毎に職員全員で、意見を出し合い、目標を立てている。今年度は「広げていこう繋がる輪と輪」である。また、事業方針「原点への挑戦」を挙げ、職員間で共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学童の見守り隊や老人クラブ定例会の参加、地域住民と一緒になってのゴミ拾い等行い交流している。	地域の清掃活動、老人クラブの活動（小学生の下校の見守り）に積極的に参加し地域の一員として、日常的に交流している。	開所以来、地域とのつながりを大切にし、様々な活動に出向いている。その中で地域に対して認知症の理解を深めるために情報提供が必要と考えられ、そうした取組みよって一層、地域との連携を深めることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月老人クラブ定例会での血圧測定を実施し、認知症の理解を求めると共に、にこにこ学級を開催し地域住民に支援方法等の勉強会を検討中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、意見交換をしそこで出された意見をサービス向上に活かしている。	定期的に会議を開催している。最近では昔の食べ物・保存食をテーマにし、委員の方と一緒に梅干し作りを行っているほか、味噌作り等も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連携を図りながらケアサービスを行い、協力関係を築いている。	運営推進会議には、必ず市の職員に出席して頂くなどして、サービスの状況を伝えている。生活保護、後見人制度についての相談等、日頃から連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会の実施や、日頃からスタッフ同士工夫したケアを行い身体拘束をしない、させない様努めている。	鍵をかけることの弊害を、職員間で話し合い、「施錠しないこと」を含めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の外出要求に危険がないよう見守り、付き添い対応がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会の実施や、スタッフ同士で確認し注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も制度を活用している入居者がおり勉強する機会が持てている。また、内・外研修に参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解除時は十分な話し合いをし不安や疑問点の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会の開催、ご意見箱を設置し、意見、要望を頂いている。また、家族アンケートを行い運営に反映させている。	家族会の開催、家族アンケートなどで家族の意見や意向については直接吸い上げ、外部者にも推進会議や地域での会合などで表せる機会が持たれているが、利用者の日常生活での思いに気付き、サービスの質の向上に繋げる事の難しさを感じ、特に事業所の構造や、設備面での改善を課題としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開き意見が言える機会があり、また常に困ったことなどあれば面談や会議を行い運営に反映させている。	定期的なミーティングの他、年2回管理者との面談の機会が設けられている。日頃から、職員が相談しやすい環境も整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に目標を掲げ向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のレベルに合わせた内・外研修への参加の機会を確保している。また、研修参加後は報告会を行い全員で共有できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	部会やグループホーム協会定例会など同業者との交流する機会には出来るだけ参加し、情報交換をしている。また、交換研修など相互訪問し質の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族と会い不安や困っていることなど状況、状態の把握に努めている。安心した生活を送れる様関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に状況、状態把握に努めている。初期は特に不安や困っている事も多く常に耳を傾けながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーや関係者と連携を図りながらその時に必要なサービスにつなげられる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑作業や風土料理等入居者から教わる事も多く主役になれるような場面作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報の通信欄を活用しスタッフが現在の状況を伝えている。また、面会時や電話でも情報交換をし入居者と家族の絆を大切にし一緒に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問やよく行った釣りなど人や場所との関係が途切れないよう支援している。また、スタッフも同行し同じ景色や風、香を感じている。	車椅子利用者であっても趣味の釣りを楽しむことが出来るような支援や、お墓参りや自宅へ行く機会を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事作りや日々の掃除、家事を通じて共同で作業できる環境を工夫している。また、生活の中で食事用エプロンを着けたり、車椅子を押したり等支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ訪問等行い、経過を見守りフォロー、相談できるよう支援に努めている。また、現在も退居された入居者家族が推進会議に参加して頂いている。これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や関係者から入居前に情報収集をし、経過等の把握に努めている。また、本人との日々の会話も大切にし、その人を知ろうと努めている。	日常の会話を大切にしている。利用者の重度化に伴い、本人からの聞き取りが困難な場合も多く、家族からも聞き取り、生活歴を把握したうえで、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のケアマネージャーからの情報や、本人、家族等から話を聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況、精神状態の観察を行うと共に、できること、できないこと、できそなことは何か、日々の観察に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを定期的に行っている。本人や家族の意向、医師等関係者の意見も反映させながらプランを作成している。	毎月モニタリング実施。3ヶ月毎にカンファレンスを実施し、プランの見直しをしている。定期の通院時に職員も同席し主治医の意見を確認し、プランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録や日常生活の状態を記録しプランの見直しに活かしている。また1日2回の申し送りで情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一般浴が不可能になった入居者に対しては併設デイサービスの特浴を使用し柔軟に支援している。その時々の問題に対して都度検討し対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学童の下校の見守り隊に参加している。入居者はたすきをかけると自分の役割と認識し生き生きとした表情となっている。地域の関りにはできるだけ参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は家族対応で入居前のかかりつけ医に受診している。主治医には手紙に様子を記載しまたは、電話にて適切な医療を受けられるよう支援している。また、必要に応じてスタッフ同行し受診している。	家族の支援でかかりつけ医の受診を継続しているが、利用者の重度化が進んでおり、普通車両で通院困難な利用者に対しては、リフトバスでの送迎を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師が来てバイタル測定等実施している。また、職員は日々の気付いた事や、様子、受診の経過等を看護記録に記載しアドバイスを頂き、入居者が安心して暮らせるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、安心して治療出来るよう、また早期に退院できる様病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で本人・家族と話し合いを行っている。また、病院関係者や市職員等地域の関係者ともチームで支援に取り組んでいる。	看取りの指針を整備している。オンコール体制を整えている。利用者の重度化が進んでおり、家族と相談しながら対応を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署職員を講師にAEDや応急手当等研修を定期的に開いており実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民で結成する防災協力隊と一緒に訓練を行っている。また、職員も毎月の避難訓練で避難できる方法を身につけている。3.11の震災を機に備品、食料などの見直しや補給も行っている。	年に1度は消防署立ち会いのもと避難訓練を実施している。震災の際は、大きな被害はなかったものの、停電が数日続き、近隣の住民から発電機やガス釜、食料品の供給による協力が得られていた。オムツや食料をリストに添って備蓄している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が禁句マニュアルを周知している。また勉強会を行っており声掛け、対応には十分気を付けている。スタッフ同士で注意し合ったりし入居者1人1人の人格を大切にしている。	物忘れ・食事・排泄・拒否・妄想・幻覚・暴言暴力・徘徊・不穏・睡眠・行動・意欲・機能の場面に分けて禁句マニュアルを整備し、職員間で共有している。プライバシーを損ねない対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いを尊重し自己決定が出来るよう常にゆとりを持ち話しに耳を傾けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の様子、介護記録を基に本人のペースを把握している。買物、入浴時間、散歩等入居者1人1人のペースに沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定、その人らしさを優先しつつ清潔感にも配慮している。また、外出の際にはお化粧をしおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑では野菜作りを一緒に行い、収穫した食材を使い一緒に食事作りをしている。また、好みの物は何なのか会話の中から情報を得ている。食事作りから片付けまで全員で参加できるよう支援している。	郷土料理を取り入れ、昔の味を大切にしている。梅干しや味噌作り等も地域住民の協力を得て行っている。日常的な食事の準備では、利用者それぞれ出来ることを行っていただくように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や栄養バランス、水分量はチェック表にて全職員が把握している。必要時には主治医に相談している。刻み、お粥、ミキサー食等個々の状態にあった形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者1人1人の状態に合わせ介助し清潔を保てるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンに合わせた支援を行っている。トイレでの排泄を常に考え、2人対応で介助することもある。排泄パターンを把握し誘導することで失禁が減少しているケースが多い。	重度化に伴い、自力ではトイレ使用が困難な利用者に対しては職員2名で対応している。チェック表で個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄に繋げられるように支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳又は、乳製品を摂取、バランスのとれた食事の提供、散歩、体操など適度なう運動をしながら予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望を事前に本人から確認しており希望に沿った対応をしている。また、今は入りたいとの言葉が聞かれた際には可能な限り対応するよう努めている。	週2回以上の入浴を実施している。重度化に伴い、家庭浴槽での入浴が困難な利用者に対しては、併設のデイサービスセンターの機械浴を使用し入浴介助されている。暑い日等は本人の希望に応じて、また皮膚トラブルのある利用者に対しては毎日入浴実施する等、個々の状態に応じて入浴の支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時々の状態や状況に合わせ支援している。夜間不眠傾向の方には日中活動的に過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が入居者個々の服薬状況を理解しており、服薬による症状の変化など見逃さないよう気を付けている。必要に応じて主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴を基に家事、畑仕事、趣味活動等楽しみながら行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行ってみたい場所、なじみの場所に家族やスタッフと一緒に個別に出掛けている。また、買物等その日の気分に合わせて支援している。	いちご畑や畑を整備し日常的に外に出る機会を作っている。併設のデイサービスセンターを利用されている知人に面会したり、食材等の買い物に出かける等、外の空気に触れ季節を感じる機会を大切にしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人ひとりの希望、力に応じて支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて装飾を変えており、外出時の写真を貼る等工夫している。温度調節や、換気は常に行い不快感の内容工夫をしている。	季節を感じられるように花を飾る等配慮されている。食堂はエアコンで適正温度にコントロールされ、夏の暑い日も涼しく食事をとることができている。行事の写真等を廊下に掲示し、生活の状況を確認することが出来た。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファーを置いたり、廊下に長椅子を置き本を読んだり、横になられたり思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との思い出の写真や若かった頃の写真など飾ったり、自宅で使用していた寝具、家具など馴染みの物を持ってきて頂き居心地良く過ごせるよう工夫している。	馴染みの家具等の持ち込みを勧めている。椅子や時計、位牌等が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者1人1人が安全で安心して生活できるような環境を提供できるよう工夫している。場所の理解の為案内板を掲示する等自立した生活を送れるよう支援している。		